

学会記事

◎第6回理事会(昭.32.11.13)出席者:内海会長,篠原副会長,東,飯吉,国分,丸安,逸見,米屋の各理事。議事:1)10月中の行事その他報告,2)土木賞委員会委員のうち関東地区候補者を選考,地方区は各1名ずつ支部長に選考を依頼すること,3)土木学会用地取得促進について,4)昭和32年度国鉄技術研究委託「高張力鋼鉄道橋の設計および製作に関する研究」を受託すること,5)昭和33年度文部省科学研究費等分科審議会委員候補者2名は東大教授 本間 仁君,阪大教授 田中 清君を推薦すること,6)土木工事写真集改訂版の委員会設置を計画すること,7)土木技術資料委員会の設置は中止,8)編集委員 坂野重信君の後任に南部三郎君を委嘱すること,9)工業技術院よりの委託「コンクリートの圧縮強度試験方法工業標準改正原案の調査作成」を受託すること,10)会員名簿の発行予算について,11)10月会員入退会の承認(別掲参照)。

◎各種委員会

1. 第6回会誌編集委員会(昭.32.11.22)出席者:丸安副委員長,小林,松本(代岡部),三上,南,八十島,奥田(代吉岡),安藤,後藤(東北)各委員,深谷幹事。協議事項:1)投稿原稿審査報告,2)原稿依頼状況,3)依頼原稿の件,4)土木賞に関する件,5)43巻1号登載原稿を次のとおり予定した,6)その他。

石田一郎・河野康雄:橋梁下に構造物を作る場合における既設橋脚の受け方に対する一考察,永井荘七郎:ヨーロッパのおもな港湾について,田原保二・巖真 温:南極本観測におけるクラック・パドル対策について,小寺重郎:ドイツにおける橋梁の現状,金森誠之:土木工事における高分子工の応用,横道英雄:寒地におけるコンクリート(2)。

2. 第6回会誌編集小委員会(昭.32.11.4)出席者:糸川委員長,栗栖,南河委員,深谷幹事。協議事項:42巻12号(増大号)編集につき最終的な打合せを行った(100ページの予定)。

3. 第6回会誌抄録委員会(昭.32.11.1)出席者:八十島委員長,伊能,岩間,垣中,小池,佐藤,高秀(代西原),土屋,堀井,松本,湯浅,矢島,渡部の各委員,高橋幹事。協議事項:1)42巻12号登載抄録7編を予定,2)42巻12号文献目録カードの選定,3)新規抄録の提案,4)その他。

4. 論文集各部会(昭.32.11.7)出席者:(第1部会)後藤,村上,高田,大地。(第2部会)佐藤,松田,粟津,井島,嶋。(第3部会)福岡,三木,西亀,比留間,市原。(第4部会)友永,黒河内,渡部,春日屋の各委員。徳平幹事。議事:各部会の論文審査報告および新規受付論文の審査。

5. 論文集部会長会(昭.32.11.14)出席者:友永委員長,国分理事,山口,嶋,市原,春日屋の各部会幹事,徳平幹事。議事:1)2月発行の論文集登載論文審議,2)

土木賞候補論文の推薦方法について審議,3)11月7日の論文集各部会の協議事項を承認,4)その他。

6. 土木振興対策委員会(昭.32.11.5)出席者:平山委員長,金子,河口,黒田,高橋,比企,町田,米田,千秋の各委員,中安幹事。とくに公益事業局 篠原水力課長(代野田氏)に出席願った。議事:技術士の技術部門試験科目の区分について,建設部門のうちの上下水道を,衛生工学部門に独立したいとの厚生省の要望に対して,その答申を協議のために委員会を緊急に開催し,協議の結果,現段階においては現案どおり建設部門におくべきで,将来衛生工学の進展に応じて改訂することもありうるということになった。

7. 第60回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.32.11.8)出席者:吉田委員長,国分,丸安,岡本(代加藤),坂本,友永の各委員,高橋,大野,天野,平岡,小寺,堀内,佐藤,川口,深谷の各幹事。議事:各論編の井筒3条まで審議,次回は11月21日14時開催。

第61回同委員会(昭.32.11.21)出席者:吉田委員長,国分,平井(代西脇),岡本,丸安の各委員,白石,尾崎,池原,平岡,大山,川口,深谷,小寺の各幹事。議事:2編各論,井筒およびラーメンの第1原案を審議。

8. 第6回コンクリート示方書解説委員会(昭.32.11.1)出席者:吉田委員長,国分,畑野(代永倉),山田,三浦,樋口,深谷,伊東(代坂口),関の各委員。議事:無筋解説69~101条を審議。第7回同委員会(昭.32.11.13)出席者:吉田委員長,国分,川口,畑野(代永倉),樋口,深谷,伊東(代坂口),関,丸安,三浦,山田の各委員。議事:無筋第1読会終了(ショットクリートを除き)。第8回同委員会(昭.32.11.20)出席者:吉田委員長,国分,川口,樋口,深谷,伊東,関,山田,丸安,三浦(代大山)の各委員。議事:ショットクリート終了,鉄筋104~119条を審議。

9. 原子力土木技術委員会(昭.32.11.12)東海村原子力研究所を見学。参加者:岡本,高坂,逸見,米屋,種谷,長山,豊田の各委員,委員外で耐震関係者小西(代森,成岡),畠山の諸氏。

10. 第17回耐震工学委員会(昭.32.11.18)出席者:沼田委員長,岡本,友永(代小寺),東(代山本),小西(代後藤),平井(代伊藤),最上,松尾(代山内),近藤,星埜,畠山,田原の各委員,久保幹事。議事:1)10月17日の第2回万国地震工学会議幹事会においては第1回会議の主催国である米国にまず働きかける意味で Housner 教授に第2回国際会議の計画について手紙を送り,その返事をまつて各国に働きかけることとなつたとの報告,2)第2回万国地震工学会議の運営について,外国参加者の旅費負担の問題,会議の進め方としての研究発表の取扱いなどについて意見を交換,3)耐震工学委員会の運営についての意見を交換,4)土木研究

所 高田孝信君を委員に追加。

11. 第10回土木設計管理小委員会 (昭.32.11.20) 出席者: 比企委員長, 豊田, 加納 (代加川), 仁杉 (代堀内), 増山, 近藤, 八十島, 秋山 (代近藤), 河野, 吉田 (代山口) の各委員, 磯部幹事。議事: 1) 土木設計および管理業務基準試案の第3章 実施設計 第12~第19条を逐条審議, 2) 技術士法の試験科目で懸案となっていた上下水道は技術部門に「水道」を設け, 科目を上水道, 下水道, 工業用水水道とすることに決定した旨, 比企委員長より報告があつた。

12. 海岸工学委員会 (昭.32.11.25, 名交会館において) 出席者: 本間委員長, 岸 (代木村), 林, 永井, 太田尾, 久宝, 田中 清 (代室田), 新妻, 白石, 石原 (代樫木), 佐藤, 福島 (代柏村), 篠原, 速水, 鶴田 (代砂金), 藤野の各委員。議事: 1) 試験研究費の研究項目および代表研究者の件一波力 (水理) 田中 (阪大), 波力 (構造) 永井 (大阪市大), 漂砂一石原 (京大), 防砂堤一本間 (東大), 2) 海岸工学講演集英文レポート作成促進の件, 3) 第5回海岸工学講演会を昭和33年11月東京あるいは横浜で開催の予定, 4) 33年度委員改選の件は全員留任に決定, 5) 海岸保全施設設計便覧の続編は来年度6月頃から作成に着手する。

13. フライアッシュ小委員会 (昭.32.11.28) 出席者: 国分委員長, 三浦 (代杉木), 水越 (代知久), 平野, 野瀬 (代太斎), 関, 高野 (代森), 左右田, 高橋, 本間 (代廉田), 光岡, 久木田の各委員。議事: 1) JIS規格案によるフライアッシュ共通試験成績をもちよりデータを取りまとめ JIS規格委員会に提出することとした, 2) フライアッシュおよびセメントを12月15日までに電力技術研究所に送付し, 電研から担当研究者に配布することとした。

◎**第4回海岸工学講演会** (昭.32.11.25~26, 名古屋市名交会館において) シンポジウム9題, 調査報告13題で討議および質疑応答が行われた。参会者約300名。名古屋港見学は約160名でいずれも盛大であつた。

支 部 だ よ り

東北支部 20周年記念式典および記念講演会 (昭.32.11.9, 仙台商工会議所ホールにおいて) 1) 記念式典並びに感謝状贈呈 12.30~13.30, 2) 記念講演会 13.30~15.00「原子力開発の諸問題について」科学技術庁科学審議官 安芸俊一氏, 15.10~16.10「最近の西欧情勢について」河北新報外信部長 一力一夫氏, 3) 映画会 16.20~17.40 黄河の建設, 黒部峡谷。本部より米屋理事長兼代理として出席, 参加者200余名で非常に盛会であつた。

関西支部 1) 昭和32年度支部商議員の異動, 新任 福田正典君 (大阪鉄道管理局施設部計画課長), 退任 中村

弘君。2) **学術講演会** (昭.32.11.10, 大阪市立大学理工学部において) 参加者約100名 (講演詳細は会誌9月号参照), 3) **通俗講演会** (昭.32.11.16, 和歌山市市民会館において) 講演「米国における最近の道路事情について」和歌山市長 高垣善一君, 「原子力並びにその発電について」関西電力KK原子力部第一課長 長安 実君。映画「原子力とは」「フーバーダム」参加者約300名。

中国四国支部 第9回支部学術講演会および見学会 (昭.32.11.27~29, 松江市山陰合同銀行本店講堂において) 皆見富治: ガス輸送管海底埋設について, 星 治雄・楠本博之: 横桁の横曲げ剛性を考慮に入れた並列梯形ラーメンの性状について, 本岡和雄: 伯備線第一日野川橋梁改良 潜函基礎の設計施工について, 青木康夫: Hardy Crossの管網計算法の改良について, 森田盛夫: 仁淀川第三発電所建設工事について, 伊勢田哲也: 堰堤堤柱設計について, 椿 東一郎: 河床の変動に関する一考察, 染矢 稔: 皆生海岸における放射性同位元素による漂砂追跡実験について, 星 治雄・児島弘行: 箱型並列構造の一応力解析法, 福岡 茂: 玖河鉦山橋の工事報告, 徳田秀雄: 鹿野川ダム工事の概要と2,3の問題点, 荒木謙一・福田俊治: 不連続粒度の骨材がコンクリートのフリージングに及ぼす影響について, 富山 勲・中原正雄・岸本卓三・山内恒雄: 松江国道の2,3の特殊工法について, 武井 稔: 松山火力発電所土木工事について, 梶原宗久・瀬川浩司: 岸壁の地震時安定に関する基礎的研究, 溝田市雄: 富海付近護岸工事について, 加賀美一二三: コンクリートの圧縮応力-ヒズミ曲線の考察, 小田英一: 傾斜面の下深く掘つたトンネルの周辺応力について, 小沢章三: 大森川発電所計画 (揚水計画) について, 米沢 博: 衝撃荷重による梁の塑性変形, 富山 勲・三村篤敬・白川 漁: 斐伊川流砂を考慮した低水護岸工法について, 久宝 保: 砂利河川の河道設計法, 城坂孝: 乾船渠工事の一施工例について, 田中要三: 平均流速公式の最近の傾向, 富山 勲: 斐伊川改修計画並びに中海, 宍道湖総合開発計画概要, 斐伊川改修計画並びに有料道路工事見学 (松江一大社往復)。

西部支部 支部講習会 (昭.32.10.28~29, 人吉市において) 題目: 重力式岸壁壁体の比重について 田賀秀和君, 2) 土質安定工法—その概要その原理と実際 山内豊聡君, 3) 最近の合成桁について 安宅 勝君, 4) フライアッシュコンクリートについて 吉田弥七君, 5) 護岸水制 鷲尾龍龍君 (テキストは学会に備付)。

◎**関係学協会その他の動き**

1. 日本工学会 定例理事会 (昭.32.11.8) 1) 定例理事会期日を毎月月上旬としそのつど次回をきめる, 今回は12月5日17時とする, 2) 工学会手帖申込状況は2716 (発行3000) 注文あり, 3) 工業クラブ旧事務室は, 工学会会合用のスペースを残し鉄道電化協会図書室

に貸すことになり室料は半額負担をして貰う、4) 事務処理委員会(仮称)設置を計画し、課税対策、編集の問題、会費集金制度の復活、会誌発送等の問題のうちどれか一つを取り上げ本月中第1回を開く、5) Gail A. Hathaway 博士提案の件(太平洋および極東地域における技術学協会の連合を組織すること)については今月中に各学会、業界の元老に参集を願って相談する計画。**事務処理研究会**(昭.32.11.20) 1) 本会は日本工学会会員学協会の事務関係者をもつて組織し、事務事業の研究と会員学協会間の連絡調整をはかる目的とする、2) 本会の事業は試案にもとづき研究し、次回に具体案をたてること、3) 会名はかりに「工学会事務研究会」とし、次回さらに協議すること、4) 学協会調査表の作成、5) 本会は原則として毎月1回開催すること、6) 本会の経費は日本工学会の負担とし、必要に応じて会員より会費を徴収することがある、7) 次回は本会の事業組織について協議すること。**工学会首脳者会議**(昭.32.11.27, 神田学士会館において) Gail A. Hathaway 氏提案の太平洋諸国の **Engineering Societies** の連盟結成に関する相談会に篠原副会長が出席した。

2. 横河橋梁製作所新社屋落成記念会(昭.32.11.9, 西芝浦2の2)
3. 日本気象学会 75 周年記念式典(昭.32.11.9, 深川清澄公園)
4. 小沢久太郎氏 東南アジア 訪問壮行会(昭.32.11.11, 第一ホテル)
5. 第4回「風に関するシンポジウム」(昭.32.11.11

～12, 農業技術研究所) 8学会共催, 15 講演, 映画会。

6. 鹿島建設技術研究所新築竣工式(昭.32.11.12, 調布市上石原字柳谷戸 462)
7. 小河内ダム竣工式(昭.32.11.26, 奥多摩湖畔において)
8. 第2回原子力シンポジウム企画委員会(昭.32.10.29) 日本学術会議原子力特別委員会委員長 伏見康治氏からの連絡, おもな審議決定事項:(1) 第2回原子力シンポジウムの日程(昭.33.2.7～9, 会場A 一橋講堂, B,C 神田学士会館), (2) 予算案 293 200 円外に予備費 2～3 万円加算を希望, (3) 事務分担 a) A会場—電気学会, 日本物理学会, B会場—日本化学会, 日本機械学会, C会場—日本医学放射線学会, 日本放射性同位元素協会, b) 懇親会および会場諸設備—日本物理学会, c) 総合講演, パネル討論会, 速記, マイクロホン, スピーカー, 幻灯, 参会者のためのネームカードの作成, 参加申込, 研究発表申込, プログラムの作成, その他は学術会議事務局および会場担当学会で世話をすること。(4) シンポジウム要旨集はオフセットで原子力シンポジウム報文集刊行会において発行すること。(5) 分担金の基準: 1) 10⁴ 以上の会員を有する学会 7 000 円, 2) 10³ 以下の会員を有する学会 5 000 円, 3) 10² 以下の会員を有する学会 3 000 円, (6) 書籍展示会場は原子力関係資料に限り, 関係書店が負担しその世話は日本化学会があたる, (7) 経理面の事務は日本学術振興会があたる。
9. 昭和 33 年文部省科学試験研究費補助金の公募
提出期限: 昭和 33 年 2 月 3～8 日限りのこと。

会 員 現 在 数 (昭.32.11.30 現在)

名誉員	賛助員	特1級 A	B	C	特2級	特3級	正員	准員	学生員	合計	増加
22	30	12	11	65	106	94	7 177	5 108	1 250	13 875	54

昭和 32 年 11 月分入退会報告 (昭.32.11.1～11.30)

1. 入 会 87 名 (正 20, 准 25, 学生 42)
2. 退 会 33 名 (正 11, 准 2, 学生 19, 特2級 1)
3. 転 格 10 名 (准より正へ 7, 学生より准へ 2, 特3より特1 Cへ 1)

正員 林 一 幹 君	都世田谷区世田谷 5 の 2942	昭和 32 年 8 月 19 日逝去	享年 46 才
正員 古 川 通 泰 君	山口県土木建築部道路都市課長	昭和 32 年 11 月 13 日逝去	享年 43 才
正員 下 津 秀 美 君	九州電力 K K 大桑木調査所	昭和 32 年 11 月 3 日逝去	享年 38 才

昭和 32 年 12 月 10 日印刷
 印刷者 大沼正吉
 編集兼発行者 中川一美
 定 価 100 円

昭和 32 年 12 月 15 日発行
 印刷所 株式会社 技報堂
 発行所 社団法人 土木学会
 振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 42 巻 第 12 号
 東京都港区赤坂溜池 5 番地
 東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
 電話 (35) 5130・5138・5139 番